仙台市文化財調査報告書第20集

史　跡　遠　見　塚　古　墳

昭和54年度環境整備予備調査概報

昭 和 55 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第20集

史　跡　遠　見　塚　古　墳

昭和54年度環境整備予備調査概報

昭 和 55 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

例　　言

1．本書は国庫補助事業（総額5,000,000円）である環境整備工事に伴う調査概報である。

2．この調査報告は、昭和50年度、51年度、53年度に続く第4次の発掘調査報告である。

3．本書では調査経過、調査概要の記載に重点をおき、考察は若干である。

4．本書の執筆、写真、図面のトレースは結城慎一が担当した。

5．本書の編集には結城が当った。

6．土層の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人・日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖を使用した。

7．本調査は昭和54年10月に着手し、昭和55年3月31日に全ての事業が終了した。

第4次発掘調査要項

1．目　　的　　環境整備に先行する北西、北東部周湟外縁の確定調査。

2．調査面積　　86㎡（仙台市遠見塚一丁目23－10外）

3．調査体制

調査主体　　仙台市教育委員会

調査担当　　仙台市教育委員会社会教育課文化財係

（課長）永野昌一、（主幹）早坂春一、（係長）鈴木昭三郎、（主査）鈴木高文、（主事）田中則和、結城慎一、工藤哲司、柳沢みどり、渋谷孝雄、木村浩二、篠原信彦、佐藤洋、渡部弘美、佐藤甲二、山口宏、渡辺洋一

調査指導　　伊東信雄（仙台市文化財保護委員、東北学院大学教授）

氏家和典（宮城県教育庁文化財保護課長）

調査参加者　巻野俊夫、松本寿一、萱場靖

調査協力　　早坂清

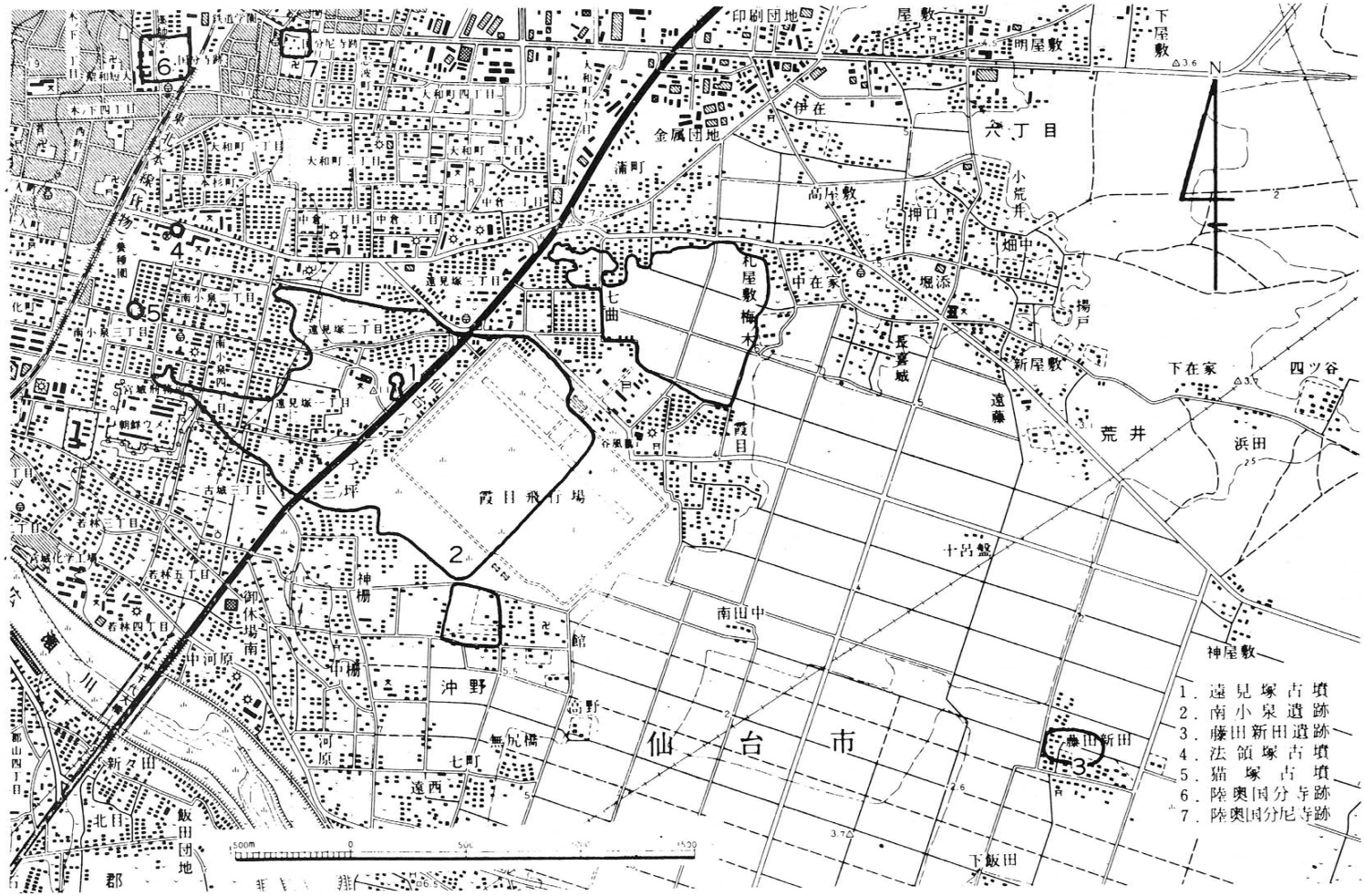
4．調査期間　　昭和54年10月8日～10月31日（延12日）

本　文　目　次

Ⅰ．古墳の位置と歴史的環境……2
Ⅱ．調査経過……2
Ⅲ．調査内容……6
Ⅳ．まとめ……7

図・写真　目　次

図１　遠見塚古墳とその周辺……1
写真１　第15トレンチ発掘現場……3
写真２　第15トレンチ南壁断面状況……3
写真３　第16トレンチ実測風景……3
写真４　第16トレンチ発掘現場……4
写真５　第16トレンチ遺物出土状況……4
写真６　第16トレンチ西側断面状況……4
図２　史跡遠見塚古墳現況平面図……9・10
図３　第15、16トレンチ断面図……11・12



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図(仙台東南部)を使用したものである。

図1　遠見塚古墳とその周辺

Ⅰ．古墳の位置と歴史的環境

古墳は仙台駅から東南へ3.7㎞の遠見塚一丁目にあり、広瀬川北岸の発達した自然堤防上にある。古墳周辺はまだ畑地や田地が残っているが、バイパス開通以後、急速に市街化が進行しているところでもある。

この一帯は早くから人々が居住したところであり、多くの古代遺跡を残している。この古墳を含む一帯は南小泉遺跡といい、弥生時代から古墳時代の大集落跡であり、ここより東方約3㎞にも弥生土器を出土する藤田新田遺跡がある。遠見塚古墳より西方には法領塚古墳、猫塚古墳の円墳もあり、かつては大小の古墳群を形成していたと思われる。律令時代に入いると条里制が敷かれるが、現在でもこの地には一部条里遺構が残っており、「二ノ坪」、「三ノ坪」の地名も残っている。また古墳の北東1.5㎞付近に陸奥国分寺跡、国分尼寺跡があり、古墳周辺は市内でも史跡の豊富な地域として注目されている。

Ⅱ．調　査　経　過

10月８日（月）

・第15トレンチ、16トレンチをユンボで掘り上げる。

・第15トレンチの状況

山砂盛土を含めて１ｍ～1.2ｍユンボで掘り上げた。層は全て平行層で、周湟外縁に当たるところは見られない。

・第16トレンチの状況

現表土下約80㎝で地山らしきところに達する。ユンボで掘削している間に周湟外縁と思われる線を確認する。

10月９日（火）

・第15トレンチ

雨水を排水した後、１／40、１／100で平板実測図を作成する。

・第16トレンチ

１／40の平板実測を行ない、レベル記入をする。

写真1
第15トレンチ
発掘現場

写真2
第15トレンチ
南壁断面状況

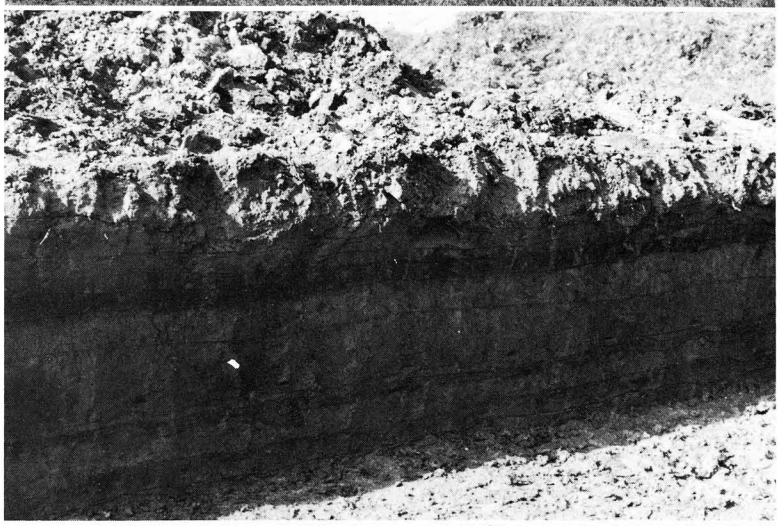


写真3
第16トレンチ
実測風景

写真 4
第16トレンチ
発掘現場

写真 5
第16トレンチ
遺物出土状況

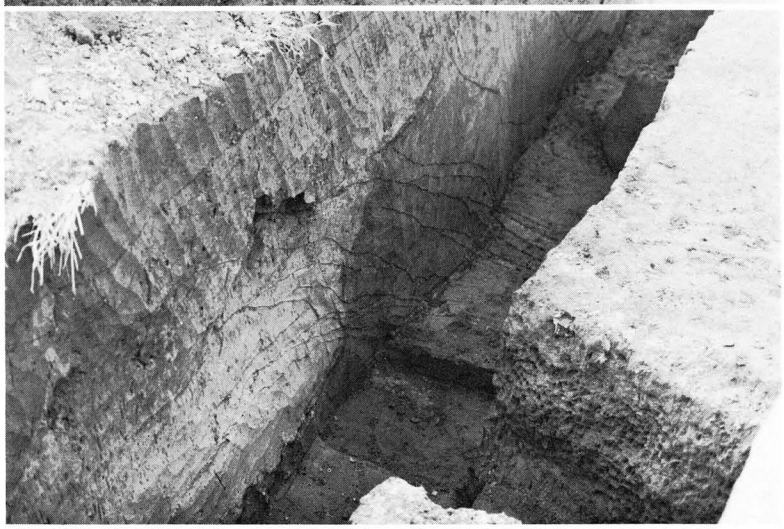


写真 6
第16トレンチ
西側断面状況

10月11日（木）

・第15トレンチの断面を削りなおして、その東、南壁の実測を行なう。

10月12日（金）

・第16トレンチの周湟外縁と思われるものを確認するため、南側に１×２ｍ、トレンチを拡張する。その結果、これは周湟ではなく近世以降の溝跡であることが判明した。その後、拡張部の平、断面図を作成した。

・伊東信雄教授、氏家県文化財保護課長、丹羽、真山技師来跡。

10月15日（月）

・第16トレンチ西側を１ｍ幅で掘り下げる。掘り下げ部北側から約１ｍ位は遺物を含む層があり、それが酸化鉄で境され、南側に傾斜しているのでそれを追う。しかしながら４ｍ位南から北側に下がっている粘土の層があり、酸化鉄の層と合わせて見ると溝状になる。その溝状になる層の下部は若干川砂がのっており、遺物がはりついている。

10月16日（火）

・第16トレンチ遺物出土状況を１／20で実測する。遺物の大部分は土師器であるが、石皿、石製模造品（小玉）などもある。

・昨日に引き続き、酸化鉄面を一応の目安すとして掘り下げ、周湟線の確認作業を行なう。土師器等が混入していた層も周湟内の堆積層と考えられる。

10月17日（水）

・第16トレンチで昨日まで追いかけていた粘土層は南側で立ち上がり、周湟の埋土でないことが判明した。その後、掘り下げを南側に延長したところ、以前に近世の溝を発見したところからほぼ直角に落ち、また南側にほぼ平坦に伸びていることがわかった。これも酸化鉄面を境にしているもので、下層は青くグライ化した土層である。これが周湟に当るものか、もっと南側に延長して確認したい。

10月22日（月）

・台風20号の豪雨のため第15、16トレンチとも満水となる。排水作業を実施したが、第15トレンチの水は半分残る。

10月23日（火）

・第15トレンチは昨日に引き続き水中ポンプにて排水する。

・第16トレンチは拡張部の掘り下げを行なう。その結果、酸化鉄面は最南端で南に傾斜し、グライ化層上面は南に行くにしたがって上っている。

10月26日（金）

・本日、掘り残し分を全部掘り上げ、断面の最終検討にはいる。

・23日で問題を残した酸化鉄面とグライ化層の関係の検討にはいる。その結果、層の堆積はグライ化、酸化に関係なくあり、土層の堆積後、酸化鉄面ができ、その後に何層かにわたってグライ化していることが判明した。

10月29日（月）

・第16トレンチの平面図を１／40で平板実測、西側と南側壁面を１／20で実測した。

10月31日（水）

・ブルドーザによる埋めもどし完了。

Ⅲ．調　査　内　容

１．第15トレンチ

層位から見た状況は全て平行堆積であり、昭和51年度に調査した第７トレンチの堆積状況に類似している。第７トレンチは、地表から周湟底面まで約１ｍの深さであり、第15トレンチが1.2ｍほどで、さほどの違いはない。堆積層の下層は粘土か粘質シルトであり、最下層に土師器片を混入している。

第15トレンチは、墳丘東側の第７トレンチで墳麓から約40ｍの位置に周湟外縁が確認されたこと、墳丘北側の第５トレンチで約20ｍでそれが確認されたことから、両トレンチ間の北東部でも周湟外縁を確認する必要があり設定したのであるが、平行堆積層であり、周湟内に設定したことを示した状況であった。

２．第16トレンチ

第４トレンチの北側延長部、第12トレンチと第５トレンチの間の周湟外縁を得るためにトレンチを設定したのであるが、それの確認はできなかった。層の状況を全体的に見ると北側への傾斜としてとらえられ、南側への傾斜としてはとらえられない。これらの層は部分において溝状の堆積を示しており、トレンチ北側の溝の最下部には、土師器、石製模造品（小玉）、石皿などが堆積していた。ここには酸化した川砂が層をなし、昭和53年度に調査した第12トレンチ内の自然の溝の堆積と同じような状況を示している。

3．出土遺物

第15、16トレンチ内出土遺物の全量が平箱１箱弱であり、その大部分は器形不明の小片である。種類、器種のわかるものは、石皿２片（接合）、石製模造品（小玉５点、有孔円盤１点）高坏の坏部片１点、脚部片１点、土師器の甕の体部から底部にかけての破片１点であり、須恵器片の出土はなかった。土師器片の大部分はその体部調整が縦位のヘラ削りであり、甕の破片と思われる。

Ⅳ．ま　と　め

Ｉ．遠見塚古墳の周湟の状況

遠見塚古墳の周湟は、調査以前からその地形によってわかっていたものでなく、調査によって少しずつ解明されてきたものである。しかしながら新事実がわかる一方では、新らたな疑問も生じてきている。

昭和50年度は墳丘西側に設定した第１～第３トレンチの調査により、後円部西側で周湟幅約20m、深さは最大約４ｍの馬蹄形と推定された。

昭和51年度は墳丘の北側から東側にかけて第４～第７までのトレンチを設定して調査を行なった。その結果、第４、第６トレンチは通学路、水路の制約があり、周湟幅はとらえられなかったが、第５トレンチで幅約20m、第７トレンチで幅約40ｍであった。この時点で、馬蹄形の周湟という推定に変更を加える必要がでてきた。また東西周湟幅が違うことから、二重周湟の可能性が指摘された。

昭和53年度は前方部の周湟線確定のため墳丘東側に第９、10トレンチ、南側に第11トレンチ二重周湟かどうかを検討するために墳丘西側に第12、13、14トレンチを設定して調査した。その結果、第９、10トレンチで墳麓線を確認、第11トレンチでもそれを確認できた。しかしながら、第11～14トレンチの調査において、二重周湟の存在が確認できず、自然の溝の存在がわかった。また第11トレンチでは周湟外縁が墳麓に沿って検出できず、南側に流れたような状態で確認できた。

これまでの第１次から第３次までの調査内容から、遠見塚古墳の周湟の在り方が、規格性の

あるものでなく、墳丘盛土の土取りのあとを整形したものであり、それが自然溝等と関連して周湟としての機能をなしていたものと推定するようになった。

今年度は前記したように第15、16トレンチを設け、墳丘北西、北東部の周湟外縁を確認すべく調査したが、結果はⅢで記したような状況であった。第15トレンチについては、もっと外側（北東側）に周湟外縁が存在していると考えられ、また第16トレンチでは、北西延長部に周湟外縁が存在すると考えられる。また16トレンチでは、第12トレンチで確認された自然の溝がこの部分も流れていたと考えられるので、この地点における周湟の存り方については問題があり検討を要すると考えている。

現時点において、自然地形と土取掘削による周囲の溝を整形して周湟として機能させたのではないかと考えられるので、本報告で「周湟」、「周湟外縁」という用語を使用していることが適当かどうか、今後整理していく必要がある。

2．出土遺物の年代について

年代を決定できるような遺物は少なく、また特に第16トレンチでは全て周湟か自然の溝内の埋土中であるので古墳の年代を決定できるようなものでなく、遺物そのものの年代観としてのみとらえられる。

石皿については、古墳をとりまく一帯が南小泉遺跡という弥生時代から古墳時代にかけての大集落跡でもあり、弥生時代の遺物が流れこんだと考えられる。その他、石製模造品、高坏、甕などは南小泉式の概念でとらえられるものであり、5世紀から6世紀にかけての年代を与えられる。

図２．史跡遠見塚古墳現況平面図

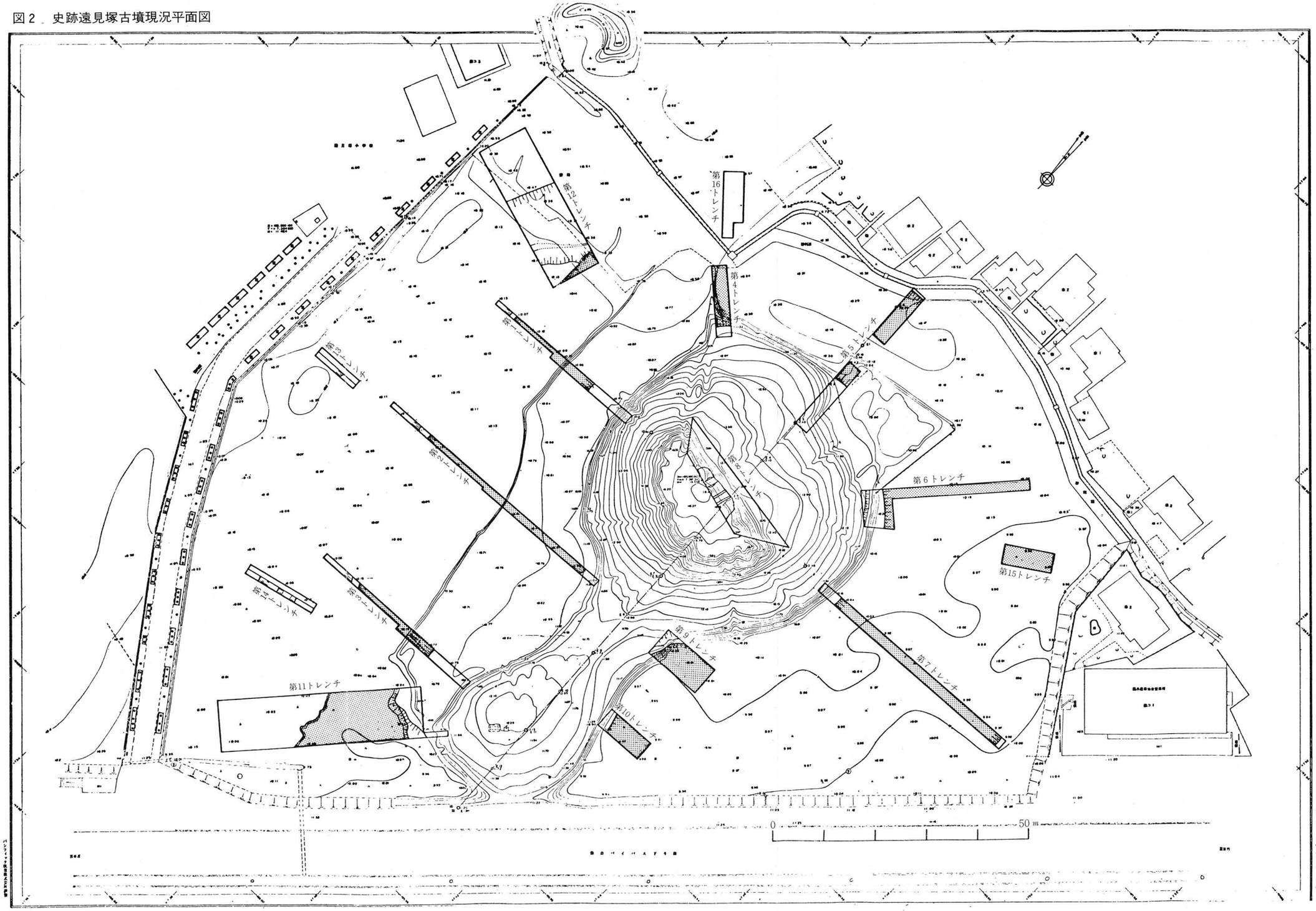
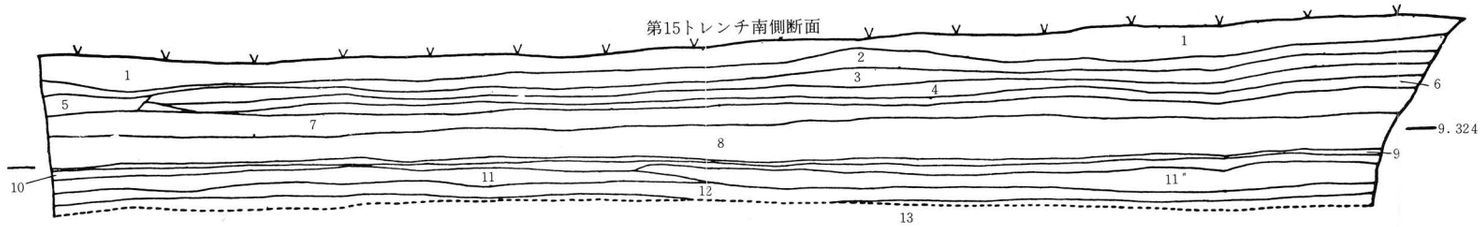
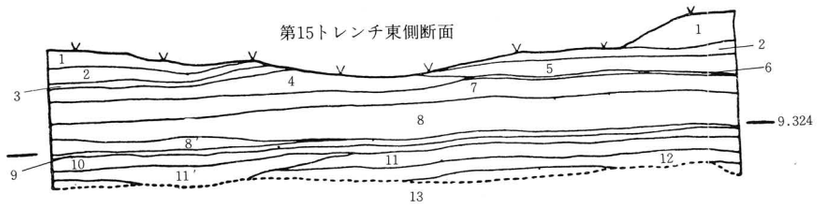


図3　第15、16トレンチ断面図

第15トレンチ南側断面

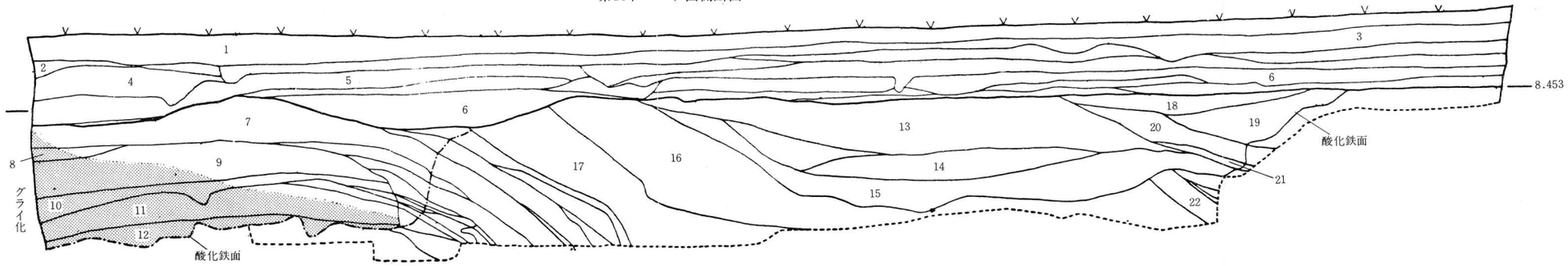


第15トレンチ東側断面

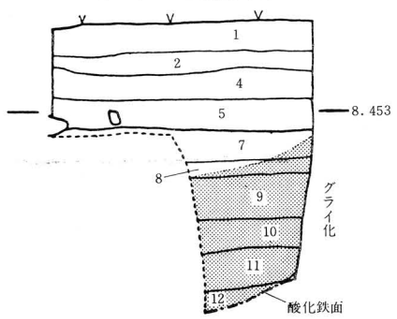


旧水田
- 1．山砂盛土
- 2．10YR4/1 褐灰色シルト
- 3．10YR6/6 明黄褐色シルト
- 4．10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
- 5．10YR5/1 褐灰色シルト
- 6．5YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 7．75YR5/6 明褐色粘質シルト
- 8．10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
- 8'．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト
- 9．10YR7/3 にぶい黄橙色粘質シルト
- 10．10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 11．10YR6/1 褐灰色粘土
- 11'．10YR5/1 褐灰色粘土
- 11"．10YR7/1 灰白色粘土
- 12．10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シトル(遺物含む)
- 13．10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シトル(地山)

第16トレンチ西側断面



第16トレンチ南側断面



耕作土
- 1．10YR4/2灰黄褐色シルト
- 2．10YR4/2 〃
- 3．10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 4．10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
- 5．10YR5/1 褐灰色粘土
- 6．10YR5/1 褐灰色粘質シルト
- 7．10YR7/2 にぶい黄橙色砂質シルト
- 8．10YR7/1 灰白色砂
- 9．10YR7/2 にぶい黄橙色粘質シルト
- 10．10YR7/1 灰白色砂質シルト
- 11．10YR7/1 灰白色粘土
- 12．10YR4/6 褐色砂
- 13．10YR7/4 にぶい黄橙色粘質シルト
- 14．10YR7/2 にぶい黄橙色粘土
- 15．〃 〃
- 16．10YR7/3 にぶい黄橙色シルト
- 17．10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト
- 18．10YR7/4 にぶい黄橙色粘質シルト
- 19．10YR8/3 浅黄橙色粘質シルト
- 20．〃 〃
- 21．10YR8/3 浅黄橙色砂(遺物含む)
- 22．10YR7/3 にぶい黄橙色シルト

0　1　2　3　4　5m

参　考　文　献

1．仙台市教育委員会「史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報」(仙台市文化財調査報告書第11集・昭和51年３月)

2．仙台市教育委員会「史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報」(仙台市文化財調査報告書第12集・昭和52年３月)

3．仙台市教育委員会「南小泉遺跡－範囲確認調査報告書－」(仙台市文化財調査報告書第13集昭和53年３月)

4．仙台市教育委員会「史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報」(仙台市文化財調査報告書第15集・昭和54年３月)

仙台市文化財調査報告書刊行目録

第１集　天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年４月）
第２集　仙台城（昭和42年３月）
第３集　仙台市燕沢善応寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年３月）
第４集　史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年３月）
第５集　仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年８月）
第６集　仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第７集　仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年３月）
第８集　仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年５月）
第９集　仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年３月）
第10集　仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年３月）
第11集　史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年３月）
第12集　史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年３月）
第13集　南小泉遺跡－範囲確認調査報告書－（昭和53年３月）
第14集　栗遺跡発掘調査報告書（昭和54年３月）
第15集　史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年３月）
第16集　六反田遺跡発掘調査（第２・３次）のあらまし（昭和54年３月）
第17集　北屋敷遺跡（昭和54年３月）
第18集　枡江遺跡発掘調査報告書（昭和55年３月）
第19集　仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年３月）
第20集　史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年３月）

仙台市文化財調査報告書第20集
史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報

昭和55年３月発行
発行　仙台市教育委員会
仙台市国分町３－７－１
仙台市教育委員会社会教育課
印刷　株式会社　東北プリント
仙台市立町24－24　ＴＥＬ（63）1166（代）

文化財愛護シンボルマーク